

市庁舎整備基本計画策定に係る市民会議(10月8日開催)

障がい児者保護者連絡協議会

意見まとめ

ワンストップサービスのあり方について

- 子どもの支援に切れ目が無く、子どもの成長に即して課題への連携が必要。障がい受容の説明が十分に果たせる体制が必要。
- 保健センターからひかりの子や保幼への情報提供が必要。
- 高齢者介護の窓口もワンストップ化してほしい。

将来の市行政（接客）サービスのあり方について

- 職員の事務的な対応が来庁者を緊張や不安にさせる。職員の挨拶と声掛けがあり、来庁者に寄り添った話しやすい環境づくりが必要。
- 人事異動で担当者が変わると情報共有や引継ぎが十分でないと感じる。再度、一から伝えなければならない。

ICTを生かした行政サービスの充実について

- ワンストップ窓口が職員の過度な負担にならなければ良いと感じる。
- ICT活用で仕事が効率化されて来庁者の相談が充実すれば良い。
- AIには情と温か味が無いから人との関わりや支援が大切。

既存施設を含めた庁舎の機能や連携について

- 情報通信技術の業務効率化に期待しつつ、障がい者を抱える親や必要とする人に支援が届くよう連携してほしい。
- 療育、発達支援、幼児課、子ども支援課、教育委員会は一緒に良い。子どもに関する連携が全て可能であることが大事。
- 健診は、一緒になくてどこでもいい。近くの出張型が理想で行きやすい。子どもセンターなど行き慣れた場所が良い。子どもが遊べる広場があれば順番を待ちやすい。(出張型は医者確保、診察室や検査スペース等の確保などに課題がある。)
- 免許を返納した方のためにコミュニティセンターで高齢者サービスの手続きができるとう良い。

障がい者等の支援機能の方向について

- 障がい者は、自分の居場所があることや健常者と交流など社会参加を通して成長を大きく育む。そういう場所が新庁舎や別棟があれば良い。

- ひかりの子は障がい者をトータルサポートする土台部分。卒業して終わる支援ではなく、次のステップも継続して支援できる体制にしてほしい。日頃から子どもに関わりがあり、担当者が変わってもつながりがあれば良い。
- 庁舎内にコミュニティカフェのような障がい者の就労場所があれば良い。
- 障がい者の周りの理解として、受け入れてくれる人、一緒に考えてくれる人、ちゃんと過ごせる配慮をしてくれる人が必要。
- 特殊な事情を抱える当事者にとって相談に行くプレッシャーがある。特定の相談場所を訪問すると他の方に事情が知れてしまうため。人々が多目的に訪れる建物や場所に行く方が負担もハードルも軽減される。
- 障がい者の災害時の避難先は、結局行く場所が無いいため車内が良いと思っている。市役所に避難してもみなさんと一緒に居るは無理。障がい者が集まる場所や普段から健常者と交流できる場があれば避難できるかもしれない。

他の庁舎機能について

- 現本庁舎に多目的トイレや授乳室が無い。建て替えまでにも必要ではないか。
- 車いす利用者のためにエレベータが大きければ良い。
- 窓口にも介助者用のスペースが欲しい。
- 駐車中に安全確保のため子どもを一時的に見てくれる人がいると良い。
- 庁舎内に行き場所や相談できるカフェのような所があればありがたい。

その他のご意見

- ひまわり館と駐車場の間に屋根を付けて欲しい。
- 行き場のない親が孤独になり虐待、ひきこもり、不登校を招く。小さい頃から誰かとの関わりや地域に居場所があることが、将来的に親子に良い影響を及ぼすことになる。
- 障がい者が安心して行ける場所が少ない。対象が小学校低学年くらいまでで、その先の親や子どもが集まれる場所が無い。
- 18歳以上の障がい者の居場所づくりも大切。
- 優先的に障がい者が利用し、一般の方も自由に来館できる施設があれば良い。職員が配置されているとなお良い。自閉症でも居やすい部屋があれば良い。
- 庁舎づくりは人づくり。人とつながること。人間としての温かさ優しさが市民の思いとつながる。市政理解とつながる。